活動報告

■活動日時

2025 年 5 月 11 日 (日) 9:30〜15:30

■プログラム名

安全講習会

■目的

安全について皆で考え、今後の作業に生かす

■活動場所

レクチャールーム、カブトムシの森 A 地区

■参加者

参加人数 16 名

【集合写真】

■活動概要

ヒヤリハットの経験共有、作業時の危険と対応、伐倒実習

■活動内容

◆座学（午前）

(1) ヒヤリハットの共有

作業時の安全管理　ヒヤリハットの考え方を紹介し、日頃の安全への意識や経験を共有しました。

- 経験談と反省
  - 加齢に伴う身体の変化を見つめ、慣れや過信に陥らないよう注意したい。
  - 慣れた散歩道で花を見上げながら歩いていたところ、障害物に躓いた。
    - ＊==>「まさかこんなところで…」という油断が危険。
- 伐倒作業でのヒヤリハット
  - 伐倒作業では死亡事故もあり、森会方式の手順とルールの順守が重要。
  - 伐倒後の安全確認も忘れない。
  - 指差呼称は形式的でなく、意味を理解して実施する。
  - 倒れた木が地形の影響で跳ね上がった事があった。
  - 材処理時に枝が跳ね上がることがあり、周囲への配慮が不可欠。
  - 斜面での作業中に上から玉切りされた材が転がってきた。
    - ＊==>下方の安全確認を徹底する。
  - 私生活での電動工具使用時にもキックバックの危険を想定し、防具を着用。
- マダニ被害
  - イノシシの通った場所に多数のマダニを確認。
  - 普段はタイツ着用で対策しているが、油断して多数噛まれた経験あり。
    - ＊==>暑い時期でも肌の露出を避ける服装（長袖・タイツなど）が重要。
- 今後への提案
  - 備品整備の際などに、刃物や道具の基礎講習を実施する。
  - 作業前後にロープワークなどの技術確認の時間を設ける。
- その他
  - 斜面での作業には滑り止め付きの靴が有効。
  - 福岡県主催の安全講習会がある。

（２）作業時の危険と対応

危険生物と熱中症について

- スズメバチ類に刺された場合のアナフィラキシーショック、毒蛇による咬傷は即救急車を手配する。
- 熱中症は容体を見ながら適切に対応する。
- 救急箱の内容（ポイズンリムーバー、冷却パックなど）について説明あり、特に関心を集めた。

【座学の様子】

◆伐倒実習（午後）

2 班に分かれてクヌギの伐倒実習を行い、新入会者には森会の作業手順を解説しながら進めました。午前中の座学で学んだヒヤリハット事例が役立ちました。受け口切りや材処理にはチェーンソーを使用して、作業時間の短縮を図りました。

【伐倒実習前の様子】

【Ⅰ班活動の様子】

【Ⅱ班活動の様子】

今回の安全講習会は、多くの参加者が積極的に関わり、非常に実りの多い内容となりました。特に今回は、活動経験が浅い参加者の姿も多く見られましたが、そうした方々にとっても、危険予知や予防策を学び、実際の現場での注意点を知る貴重な機会となりました。

参加者からは、「初心に立ち返ることの大切さを感じた」「毎年確認することの意義を実感した」といった声が聞かれ、安全意識の向上に関する前向きな振り返りが多数寄せられました。実際の作業経験に基づいたヒヤリハットの共有は、ベテラン・初心者を問わず参考になったとの評価があり、他者の体験談から得られる気づきが大きな学びにつながったことが伺えます。

実地での伐倒作業では、木が倒れるスピードや音の迫力を体感することで、改めて気を引き締めて作業する必要性を感じたという意見もありました。久しぶりの作業となった参加者や初めて作業に携わる参加者にとっては、基本に立ち返りながら安全に取り組む意識を再確認する良い機会となりました。

安全講習会は年に一度の開催ですが、今回の学びをその場限りにせず、日常の活動においても常に安全への意識を持ち続けることが重要です。経験の浅い方も、ベテランの方も、お互いに支え合いながら、安全で持続可能な活動を行っていけるよう今後も努めていきます。

また、安全講習の合間には、カブ森に咲く可憐な草花をゆっくりと観察するひとときもあり、季節の移ろいを感じることができました。

上段（左：コマユミ　右：コガクウツギ）　下段（左：エゴノキ　右：ツクシタツナミソウ）

【カブ森に咲く花たち】